

授業科目名	音楽と文化	教員名	末平 浩康	免許・資格との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授業形態	講義	担当形態	単独	卒業要件	保育士	選択
科目番号	JIN106	配当年次	1年前期		こども音楽療育士	選択
単位数	2単位			小幼コース	選択	幼保コース
科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等						
一般目標	「音楽と文化」では、音楽鑑賞や実際の演奏を通して幅広い教養を身に付け、豊かな人間性と教養を身に付けることを目標とする。古代から近、現代まで各時代の代表的な音楽作品を鑑賞し作品や作曲家の時代背景を学ぶ。					
到達目標	(1) 音楽と文化の意義を理解する。 (2) 鑑賞の意義を理解する。 (3) 各時代の音楽の特徴を理解する。 (4) 作曲家の人間像と作品の関連を理解する。 (5) 音楽の各ジャンルの特徴を理解する。 (6) 作品の演奏を通して演奏の重要性を理解する。					
授業の概要	音楽、演劇、美術、文化等のまさに文化の時代に生きている我々は「個性豊かな自我の確立」のため音楽は必要であり、芸術は人間が人生をよりよくするために存在する大切なものである。音楽に関する幅広い知識や教養を深めるため「知っておきたいクラシック音楽」に接触する機会を実際の鑑賞や演奏を通して学習を行う。授業形態は講義とする。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 芸術・文化・音楽の関連を認識する。鑑賞の意義と鑑賞のマナーを理解する。原始時代～中世～ルネッサンス～バロック時代の作品を鑑賞する。(目標(1), (2), (3))</p> <p>第2回：古典派の時代が、ヨーロッパでは宮廷文化最後の時代であることを知り、その時代の代表的作曲家モーツァルトの音楽から《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》を鑑賞する。(目標(3), (4))</p> <p>第3回：古典派の代表的作曲家ベートーヴェンの音楽から《ピアノソナタ》を鑑賞し、ソナタ形式の構成を知り、この形式が彼を頂点として発展したことを、それ以前のソナタ形式による楽曲と比較して理解する。(目標(3), (4))</p> <p>第4回：同じくベートーヴェンの作品から《コンツェルト、交響曲「運命」》を鑑賞し、それらの第1楽章が通常ソナタ形式で書かれていることを理解する。また、彼が交響曲を確立し、すべての音楽の王位につけたことを知る。(目標(3), (4))</p> <p>第5回：ロマン主義はまず、文芸、絵画、そして音楽の順で展開されたが、この時代が今日一般に鑑賞されている音楽の中で、最も多くの作品が生み出された時代であることを知る。シューベルトの音楽から《歌曲「魔王」、さすらい人》を鑑賞し、彼がドイツ・リートのもとの確立者であることを理解する。(目標(3), (4), (6))</p> <p>第6回：ロマン派の作曲家ショパンの音楽から《ワルツ集、雨だれ》を鑑賞し、彼の作品ほぼすべてがピアノ曲であることを知り、当時のパリは文化の中心地であり、各界の芸術家が一堂に会するサロン文化が繁栄していたことを理解する。(目標(3), (4))</p> <p>第7回：ロマン派の作曲家シューマンの音楽から《子どもの情景、パピヨン》を鑑賞し、彼が、ドイツロマン派文学者ジャン・パウルに深く影響を受けたことを理解する。(目標(3), (4))</p> <p>第8回：ロマン派の作曲家リストの音楽から《ハンガリー狂詩曲、交響詩「前奏曲」》を鑑賞し、彼</p>					

	<p>が交響詩の創始者であることを知り、交響曲との違いを理解する。また彼が、ヴィルトゥオーゾとしての名声を伝説的なものにまで高めたことを知る。(目標(3),(4))</p> <p>第9回：ロマン派の作曲家ヴェルディの音楽から《歌劇「椿姫」》を鑑賞し、彼が19世紀を代表するイタリアの作曲家で、おもにオペラを作曲したことを知る。(目標(3),(4))</p> <p>第10回：ロマン派の作曲家スメタナ、ブラームスの音楽から《交響詩「モルダウ、ワルツ」》を鑑賞し、チェコ国民音楽の基礎を築いたスメタナの連作交響詩の第2曲「モルダウ」が、今日他の作曲家によって歌曲や合唱曲に編曲されている有名な旋律であることを知る。また、ベートーヴェンの後継者ともいわれるブラームスのワルツの明晰な形式感を理解する。(目標(3),(4),(6))</p> <p>第11回：ロマン派の作曲家ビゼーの音楽から《歌劇「カルメン」》を鑑賞し、「闘牛士の歌」「ハバネラ」などの有名な曲が含まれていることを知る。また彼のオペラ・コミック「美しきバースの娘」の中のセレナードをベースにした「小さな木の実」は、我が国の音楽の教科書にも採りあげられていることを知る。(目標(3),(4),(6))</p> <p>第12回：ロシア国民楽派の作曲家チャイコフスキーの音楽から《ピアノ協奏曲、交響曲「悲愴」》を鑑賞し、西欧の伝統に根ざした手法を用いて、民族的な素材をより洗練された形で活用した彼の作品を理解する。(目標(3),(4))</p> <p>第13回：チェコ国民楽派の作曲家ドヴォルザークの音楽から《スラブ舞曲、交響曲「新世界より」》を鑑賞し、ロマン派時代に流行したジプシー音楽独特の憂いを帯びた音階と、激しい踊りのリズムの特徴を理解する。また、「新世界より」が、今日演奏会で最も頻繁に演奏されるレパートリーの一つであることを知る。(目標(3),(4))</p> <p>第14回：近代の作曲家ドビュッシー、ラヴェルの音楽から《牧神の午後への前奏曲、ボレロ》を鑑賞し、ロマン派までの和声との違いを理解する。(目標(3),(4))</p> <p>第15回：現代の作曲家バルトークの音楽から《ミクロコスモス、コンツェルト》を鑑賞し、彼の楽曲は民族音楽の旋律やリズムだけでなく、構造面も分析したうえで、なおかつソナタ形式など西洋の音楽技法も同時に取り入れて成立していることを知る。(目標(3),(4),(5),(6))</p> <p>定期試験</p>
<p>学生に対する 評 価</p>	<p>定期試験70%・レポート提出30%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>時間外の学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回、講義する内容の作曲家について、図書館などで調べて基礎知識をつけておくこと。</p> <p>事後学習：講義内容について整理し、次回の授業までに完全に自分のものとしておくこと。</p>
<p>テキスト</p>	<p>『クラシックの音楽の世界』 田村和紀夫 著 新星出版社</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>参考資料等、曲に応じて適宜準備する。</p>
<p>担当者からの メッセージ</p>	<p>特になし</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。)</p>